

# 日本産酒類の輸出促進に関する ジェトロの主な取り組み

日本貿易振興機構(ジェトロ)  
平成30年9月21日

JETRO

## ジェトロの日本産酒類の輸出促進に関する取り組み方針

「日本産酒類の輸出促進に向けた課題及び対応方針」の（１）情報発信の強化、（２）効果的な販路開拓・市場拡大、（３）人材の育成を着実に実施。

### （１）情報発信の強化

- ・ 関連機関・業界団体等と連携してインフルエンサー等に対して情報提供を行う。

### （２）効果的な販路開拓・市場拡大

- ・ 日本産酒類を対象に、輸出上位国、輸出単価が高い国等において有力な酒類専門見本市への出展、海外商談会の開催や海外バイヤーの招へい等により、国内事業者が海外バイヤーとの商談機会を提供する。
- ・ 日本産酒類の輸出促進を推進する関係省庁、関連機関・業界団体等と連携して事業を実施する。
- ・ 国内事業者が効果的な販路開拓が実現できるように、海外市場・規制等についてセミナー等による情報提供を行う他、個別企業の輸出の取り組みを専門家等により支援する。
- ・ 官民が一体となって海外展開を進める琉球泡盛について、国内事業者の輸出を支援する。

### （３）人材の育成

- ・ 日本産酒類の中で輸出金額、事業者数が多い日本酒について、今後市場拡大が見込める先進国の未開拓地域や新興国等において、バイヤー等向けにセミナーを実施する。
- ・ 日本産酒類の中で輸出金額が十分に伸びていない焼酎について、年平均伸び率が高い米国において、現地関係者による協議会で輸出課題や販路拡大方法等を協議する。

## EUの有望市場への日本産酒類の売り込み

「日本産酒類プロモーションブース」を初出展

英国最大級の酒類見本市「Imbibe Live（インバイブ・ライブ）2018」にて「日本産酒類プロモーションブース」を出展（ジェトロ・国税庁）。国内の酒類事業者20社（日本酒14社、ワイン2社、ジン・泡盛2社、リキュール1社、ラム等1社）が出品。

ジンやスパークリング清酒、リキュール等、カクテルの割り材がバイヤーの注目  
見本市へはレストラン、バー、ホテルのバイヤーなど、のべ1万人以上が来場。出展社からは「非日系のバーやレストラン関係者を中心としてしっかり味が分かりクオリティーの高いバイヤーが多かった」などとコメント。

カクテルデモンストレーション開催、国内外のVIPを招待

日本酒と泡盛のカクテルデモンストレーションを開催。  
ワイン等の世界的教育機関WSETで日本酒部門を創設した幹部、英国ソムリエ協会副会長ほか、計8名が参加し、「泡盛を試すのは初めてだが、黒糖等を使うなど沖縄の文化がアルコールの特徴としてうまく生かされていて非常においしい」と評価。



バーテンダーによるカクテル作成



泡盛カクテル「Okinawa Old Fashioned」

【「Imbibe Live2018」ジャパンパビリオン】（ロンドン）

会期：7月2日～3日

出品者数：20社

会場：Olympia Exhibition Center

商談件数：809件（全体）

## 香港市場への新規参入・販路拡大を目指す我が国企業等を支援

香港にて開催されるアジア最大級の酒類専門見本市（香港 2018年11月）

「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2018」に、ジャパンパビリオンを設置（ジェトロは2012年に初出展。今回で7年連続7回目の出展。）

日本の酒類の魅力を国際的にアピールするとともに、香港市場への新規参入・販路拡大を目指す我が国企業等を支援。

JFOODOと連携し、ジャパンパビリオン内に「日本ワイン」3社の出展も支援。

<見本市概要>

見本市名：Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2018

開催期間：2018年11月8日（木）～10日（土）

会場：香港コンベンション&エキシビジョンセンター

主催：香港貿易発展局

<ジャパンパビリオン概要>

主催：ジェトロ 農林水産省補助事業

参加日程：2018年11月8日（木）～10日（土）

参加企業：27社・団体

対象：日本酒、焼酎、ワイン、ウィスキー、クラフトビール、リキュール等



（ジャパンパビリオンの様子）

## 日本の酒蔵17社が日本酒の魅力を発信

17の蔵元が参加し、日本酒商談会を開催

2018年6月21日、シドニーにて日本酒造組合中央会と共催でB to B向けの日本酒商談会を開催。総領事館、JNTOなどが後援。

日本から17社の酒蔵が参加。豪側はソムリエ・オーストラリアの会員、食品事業者、メディアなど109名が参加。

出品企業からは、「多くの商談の機会を得た」「新規取引先の開拓に繋がった」などのコメント。

商談会に併催して日本酒普及セミナーを開催

日本酒造組合中央会が日本酒について、WSET認定講師が日本酒と西洋料理のペアリング方法について解説。来場者は日本酒を試飲しながら聴講。20社以上のメディアで報道。

## 【開催概要「日本酒商談会inシドニー」】

主催：ジェトロ、日本酒造組合中央会

後援：在シドニー日本国総領事館、JNTO、ソムリエ・オーストラリア

開催日程：2018年6月21日

開催場所：シャングリラホテル・シドニー



商談会の様子



現地専門家による試飲セミナー

## 食の流行発信都市マドリードで日本酒の売り込み・PRイベントを初めて実施

## 「日本酒商談会 in マドリード」(BtoB向け) (7/5)

ジェトロ主催のスペインにおける日本酒商談会は初開催。

日本より12社参加し、インポーター、ディストリビューター、レストラン関係者等約50名が来場。



商談の様子 (BtoB)

## 「日本酒商談会 in マドリード」(BtoC/メディア向け) (7/6)

食がテーマのレジャー施設「Platea Madrid」で一般消費者向けの日本酒イベントを開催、9社が参加。メディア、一般消費者等、約100名が来場。

「以前は強くて蒸留酒のようだと思っていたが、こんなに美味しいと思わなかった」、「日本酒の種類が豊富で驚いた」等日本酒に対して好意的なコメントが来場者から多数聞かれた。



試飲の様子 (BtoC)

## 中東欧3カ国で日本酒セミナー・商談会を開催(予定)

- 日本酒がまだあまり飲まれていないが今後の市場拡大が期待できる中東欧の三都市にて、日本酒造組合中央会と連携し、日本酒についてのセミナーと商談会を開催予定。

## 【開催概要「中東欧日本酒商談キャラバン」】

主催：ジェトロ、日本酒造組合中央会

開催日程：2018年 9月24日(月) ブダペスト(ハンガリー)

9月26日(水) プラハ(チェコ)

9月28日(金) ワルシャワ(ポーランド)

## 海外バイヤー8社（6カ国地域）との商談機会をアレンジ

## IWC併催日本酒商談会in山形

- u IWC日本酒部門審査会の山形開催に併せて、審査員として来県するバイヤーと山形県内の酒蔵との商談会の機会を提供。
- u 海外バイヤー8社・6カ国地域（米国、オーストラリア、ドイツ、オランダ、英国、シンガポール）と山形県内企業16社が商談。

## 事前勉強会・個別相談会の実施

- u 海外バイヤーとの商談に慣れてない山形県内企業を対象に、事前勉強会・個別相談会を山形県酒造組合と連携して実施（2018年5月9日）。
- u 海外バイヤーとの商談に臨む上での必要な準備等について解説。

**開催概要「IWC併催日本酒商談会in山形」**

主催：ジェトロ山形

開催日：2018年5月18日（金）15:00-18:30

場所：ホテルメトロポリタン山形 朝日

海外バイヤー：8社

参加企業数：16社



商談の様子（BtoB）

## スピリッツとして米国市場へ売り込み

九州から9社の蔵元が参加し、九州焼酎商談会を実施

焼酎の主要産地である九州より9社が参加し、「芋焼酎」、「麦焼酎」、「米焼酎」、「黒糖焼酎」等、焼酎のパラエティーをPR。

米国で蒸留酒を食中酒として飲む文化がないことから、食後酒としてアルコール度数の高い原酒（40度前後）もバイヤー向けに提案。

米国側はインポーター、ディストリビューター、飲食店関係者、メディアなど約110名が参加。焼酎への関心の高さを確認。

有力顧客にターゲットを絞ったBtoC向け焼酎プロモーションも実施

- U 高級ワイン・スピリッツ店（Bacchus Wine & Spirits）を利用する優良顧客向けに焼酎試飲イベントを開催。
- U 来場者から「芋、米、黒糖、麦等、原料のパラエティーに驚いた」、「樽貯蔵した焼酎が特に気に入った」、「アルコール度数の高い焼酎（原酒）の方が良い」等、今後の商品開発にも役立つ有益なフィードバックを得ることができた。

九州へのバイヤー招聘も予定

- U 商談会後のフォローアップとして、有力バイヤーを九州に招聘予定。蔵元との商流構築・流通まで一貫した支援を実施予定。

【開催概要「九州焼酎商談会inサンフランシスコ」】

主催：JETRO

会期：<BtoB>9月7日（金）、<BtoC>9月8日（土）

会場：<BtoB>The Ramen Bar、<BtoC>Bacchus Wine & Spirits

参加企業：9社



商談会の様子  
（於：The Ramen Bar）



C向け試飲イベント  
（於：Bacchus Wine & Spirits）

## 琉球泡盛支援 セミナー、商談会、個別支援など重層的支援を展開

官民合同「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の下、沖縄事務所を最大限活用して、輸出セミナーや商社マッチングなど各種支援事業を実施

### 《輸出商社3社と泡盛酒造所との商談会を那覇で開催》

- 「第1回島酒フェスタ」(4月14-15日、沖縄セルラーパーク那覇)に合わせて、海外販路を有する国内の酒類輸出商社3社と泡盛酒造所9社との輸出商談会を開催。また、商社担当者が島酒フェスタ内の酒造所ブースを訪問する形式のフリー商談も実施。
- 商談会前日には参加商社向けに、泡盛をより深く知って頂くためのツアー(泡盛レクチャー、酒蔵視察等)を実施。



輸出商社との商談会の様子  
(那覇市、2018年4月)

### 《泡盛や観光業界向けに「琉球泡盛輸出セミナー」を那覇で開催》

- 沖縄県酒造組合とともに、琉球泡盛輸出セミナーを6月27日に開催。泡盛、観光業関係者など74名が参加した。
- 講師は株式会社コーポ・サチ代表取締役社長・平出淑恵氏と琉球大学教授のティル・ウェーバー氏。平出氏は、ワインの経験を参考にした日本酒の国際化の取り組みと、酒蔵ツーリズムのインバウンド観光への貢献について紹介。ウェーバー氏は外国人の視点から、泡盛の味や風味の理解を助ける泡盛フレーバーホイールの有用性、外国人にもわかりやすいラベルの開発の必要性などについて説明した。



泡盛輸出セミナーの様子  
(那覇市、2018年6月)

### 《個社支援強化や、海外バイヤー招へいも予定》

- 引き続き、新輸出大国コンソーシアムの専門家による個社支援や、海外からのバイヤー招へい・商談会などを予定。

## その他の活動

地方創生への貢献・海外市場・規制等の情報提供・個別事業者へのサービス

## 地方創生への貢献・海外市場・規制等の情報提供・個別事業者への支援サービス

## 地方創生への貢献

自治体や関係機関と連携し、ジェトロの商談事業等を効果的に活用し、成功事例の創出に取り組む

「一県一支援プログラム」を2013年度から実施。

- ・2013年度～2015年度：秋田県（日本酒）、福井県（日本酒）、鹿児島県（黒糖焼酎）
- ・2016年度～：広島県（日本酒）、宮崎県（本格焼酎）
- ・2018年度～：沖縄県（泡盛）

地域単位での支援に取り組むパイロットプロジェクトの「地域貢献プロジェクト」を支援。

- ・『地域資源を活用した九州の酒類（焼酎・日本酒等）の海外プロモーション』（2015年度～）
- ・『伏見SAKEブランド構築プロジェクト』（2017年度～）
- ・『東北・北海道とルクセンブルクの果実酒産業交流』（2018年度～）

## 海外市場等の情報提供

日本産酒類の輸出の現状や海外市場等に関するセミナーを、2018年度は11都市で開催予定。

- （日程調整中）宮城、京都、鳥取、愛媛、大分、宮崎、鹿児島  
 （日程確定）島根（9/6-7）、静岡（9/27）、栃木（9/28）  
 （実施済み）沖縄（6/27）

## 個別事業者への支援サービス

「新輸出大国コンソーシアム」専門家が、海外展開を図る中堅・中小企業等が抱えている課題の解決等を訪問やE-mail等を通じて支援。【58社支援】（2018年8月20日時点）  
 輸出有望産品を有する企業を専門家が、輸出戦略の策定から契約締結まで一貫して支援。【5社支援】（2018年7月末時点）

## 現地規制等の情報提供

現地市場の状況を知るための「マーケット情報」、輸出する際に知っておくべき現地規則や流通イメージを得るための「輸出の留意点」、初めて輸出する方からよく聞かれる質問をまとめたQ&Aなどを掲載した、日本酒輸出ハンドブックを改訂（2018年3月）。

- 『日本酒輸出ハンドブック』  
 （改訂）香港、韓国、台湾、中国、米国  
 （新規）カナダ

